



2024年11月8日
苫小牧埠頭株式会社

**「マーキュリア・サプライチェーン投資事業有限責任組合」への出資について
～企業間連携を通じて、物流課題解決を目指す DX および自動化・省力化の取り組み強化～**

苫小牧埠頭株式会社（本社：北海道苫小牧市、代表取締役社長：海津尚夫、以下「当社」。）は、「マーキュリア・サプライチェーン投資事業有限責任組合」（以下「本ファンド」）と出資契約を締結しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 本ファンドの特徴

株式会社マーキュリアインベストメントが運営する本ファンドは、物流・サプライチェーン領域の課題解決に資する革新的な技術・ビジネスモデルを有するスタートアップ企業等を投資対象とし、投資先への資金提供とともに、本ファンドの投資家等との連携・協業の促進を通じて投資先の成長支援を行うことを目的としています。

2. 出資参画の背景・目的

物流業界では、いわゆる「物流 2024 年問題」に代表される労働力不足をはじめとした諸課題に対応可能なデジタル化等による効率化・省力化等への期待が高まっているものの、荷主のニーズにあわせ多数の関係者が連携した個別最適化によりこれまで質の高いサービスが提供されてきたこと、また、IT 基盤整備の遅れ等もあり、新たなテクノロジー導入の余地が残されている状況となっています。

このような中、当社は、2022 年 11 月に策定した「TOMAF2025 2022～2025 年度中期経営計画」において、物流とその周辺領域での事業を通して地域や社会の課題を解決するため、企業間の連携・協業の促進を通じ、物流 DX および自動化・省力化の取り組み強化を掲げています。かかる方針の下、本ファンドへの出資を通じて、ファンド投資先企業等との連携による最新の物流 DX 導入を図ることで、地域における物流力の強化につながり得ると判断し、出資を決定しました。

3. 本ファンドの概要等

【本ファンドの概要】

名称：マーキュリア・サプライチェーン投資事業有限責任組合

組成日：2024 年 4 月 26 日

ファンド規模：30～50 億円（目標）

無限責任組員：株式会社マーキュリアインベストメント株式会社

有限責任組員：株式会社日本政策投資銀行、山九株式会社、三菱倉庫株式会社、J A 三井リース株式会社、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス、苫小牧埠頭株式会社、株式会社マーキュリアホールディングス（2024 年 11 月 8 日現在）

